国内外スクーリングと海外開発実践への単位認定制度

本研究科はフィールドワークを重視し、国内外４ヵ国のスクーリング科目を開講しています。フィリピン、インド、マダガスカル（オンライン）、そして、日本のそれぞれの開発現場において、歴史・文化・経済構造の異なる社会での実態把握能力、国際社会で必要な発表力と説得力の強化など、開発における総合能力の養成を行うため、現場作業（フィールドワーク）と、事例研究（ケーススタディ）、ディスカッションを重視した教育を行っています。

海外でのスクーリングにおいては、大学が指定する現地のスクーリング会場まで院生が各自で渡航し、各国の大学・研究機関等の教員・研究者を中心とした指導のもと、５日間にわたる現地の開発現場でのフィールドワークと英語による講義を合宿形式で実施し単位認定を行います。また、スクーリングの一部として、本学同行教員による論文指導を実施します。

日本国内のスクーリングでは、注目すべき地域福祉やまちづくりの現場を訪れるフィールドワークを実施するとともに、講義・ワークショップや、指導教員ごとの研究指導を実施します。

●「地域開発研究科目」の紹介

1 以下は 2025 年度の開講内容です。
2 現地コーディネータは変更の可能性があります。
3 各地域開発研究科目の内容・会場については、当該国の状況等により、変更になる場合があります。
4 各スクーリング会場への渡航・滞在にかかわる経費についてはすべて自己負担となります。

1 日 本

「日本及び東アジア地域開発研究」

日本・韓国・中国の開発学的特質を理論的・歴史的に考察する一方、特に日本国内の注目すべき地域づくり事例を訪れて現場の実践者からも学び、開発ワーカー・研究者としての視点や方法を深めます。さらに、研究の方法論や進め方のガイダンス講義、同級生や先輩の研究報告や経験談から学ぶ演習、リサーチ科目ごとの論文指導などがあります。

[担当教員] 小國和子、吉村輝彦（日本福祉大学大学院国際社会開発研究科教授）

2 フィリピン

「東南アジア地域開発研究」

フィリピン大学に集積している参加型開発やソーシャルワークの実習現場（都市スラムや貧困農村）の中から、政策、アプローチ、社会構造の相互関連について有意義な示唆を与える事例を選んで比較検討します。

[現地コーディネータ] フィリピン大学　College of Social Work and Community Development (CSWCD) 教員

3 インド

「南アジア地域開発研究」

インド南西部に位置するケーララ州を拠点に、「住民参加型自治体計画づくりにおける政府と市民組織の協働」のテーマのもと、地元の研究機関や行政機関の研修所、KSSP（ケーララ民衆科学運動、市民組織）などの協力を得つつ、ケーララ開発の実際を内側から学びます。

[現地コーディネータ] Dr. Babu Ambat
（Executive Director, Centre for Environment and Development）

4 マダガスカル

「アフリカ地域開発研究」

オンラインの強みを生かして、マダガスカルの首都に加え、北西部や東部においてコミュニティ開発や福祉に関わる NGO や民間企業、教育機関および地域住民からそれぞれの経験を学び、農村開発や福祉などさまざまな現場が直面する社会課題と、そこで行われている取り組みについて理解を深めます。

[現地コーディネータ] 任意団体　マナトゥディ基金（Manatody Fund）

＊2025 年度は Zoom を用いたオンライン実施となります。

5 国内外での自主的フィールドワーク

「特定地域開発研究」

上記のスクーリング科目4コースのうち一つを、研究科の規程の下に、院生が自主的に企画実施するフィールドワークに代えて単位取得することが可能です。原則として、修士論文研究のためのフィールド調査に適用されます。教員の指導の下に調査前後で計画書と報告書を作成し、審査を受けます。

＊ただし、修了要件として、少なくとも１科目(4単位)の国内外スクーリング科目①～④の単位取得が必要です。

6 海外での開発実践に対する単位認定制度

「海外開発実践」

入学以前５年前までに JICA 海外協力隊等を含む海外での開発協力実践において、1 年以上の経験を有する場合、入学後、指導教員のもとで活動をレビューするレポートを作成し提出のうえ、所定の水準を満たすと認められた場合は、海外開発実践 4 単位として認定します。この単位認定制度は、本研究科が海外での開発実践経験をお持ちの方を積極的に受け入れる趣旨から設けたものです。

＊ただし、修了要件として、少なくとも1科目(4単位)の国内外スクーリング科目①～④の単位取得が必要です。